

茨城高等学校・中学校

校長室だより 2021年5月18日

はじめに

5月も半ばを過ぎ、初夏の日差しがまぶしい季節になってきました。

生徒諸君には、毎日元気に学校生活を送ってくれていることと思います。

4月に校長に就任いたしました。なかなか生徒諸君と話をする機会がありません。特に昨今は、新型コロナウイルス感染症の影響で集会などで生徒諸君の顔を見ながら話をすることも難しい状況です。

そこで、校長として考えていること、感じていることを文章の形で生徒諸君に伝えることを思い立ちました。発行物にはタイトルが必要ですので、「校長室だより」とします。Classiを通じて不定期に発行していきます。時間がある時に読んでもらえたら幸いです。中学生には少し難しい内容もあるかもしれませんが、頑張って読んでみてください。

何のために学ぶのか

「何のために学ぶのか」中学生、高校生なら誰でも一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。勉強するよりも楽しそうなことが私たちの周りにはたくさん存在しています。時には、勉強することに意味が感じられなく思えることもあるかもしれません。私たちは何のために学んでいるのでしょうか。

筆書は国語科の教員として、特に古典分野の授業を多く担当していました。古典を教えていると、毎年のように何人かの生徒から受ける質問があります。「古典を勉強すると何に役立つのですか？」という質問です。例えば、数学を勉強することは、社会生活上必要な計算能力の獲得や、ものを計測したり設計したりする際に役に立ちそうだと、英語を勉強することは、将来外国に行ったり、外国人とコミュニケーションをとるために必要に思える、では古典を勉強することは何の役に立つのだろうかと彼らは考えたわけです。

上記のような質問に対して筆者は「じゃあ、役立つ勉強って何？そもそも役に立つってどういうこと？」と少し意地悪に答えることにしています。数学ができれば何に役立つの？外国人と話ができれば何が得なの？と問い詰めていくと、最後にはたいがいの人は答えられなくなってしまいます。(実際には筆者は、数学や英語はとても役に立つと思っています。)

特に最近の十数年、社会全体で実学志向が高まっているように思えます。2015年、文部科学省から全国の国立大学に、文学部や教員養成系学部などの文系学部を「組織見直し計画を策定し、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう努める」べきという通達がなされました。自然科学の分野でも、採算性の高い応用研究にく

らべて基礎研究分野は十分な研究費がまかなえていないという現実があります。少し論点がずれるかもしれませんが、日本が新型コロナウイルス感染症ワクチン開発において世界に遅れをとった理由について、製薬会社や研究機関がビジネスとして成立しやすい研究に偏り、採算性の低い基礎研究をおろそかにしてきたからだ、という指摘もあるようです。

実学自体は決して悪いことではありません。私たちの生活を豊かにし、社会の諸問題を解決する上で実学の発展は不可欠です。問題は「役に立つか立たないか」という価値観のみで学びを評価しようとすることです。言い方を変えれば学問に「即効性」のみを求めることの危うさです。文学や哲学、基礎研究は、すぐに何かの役に立つものではありません。しかし、人々が営利だけを目指し、人間や人生について考えることがなくなった社会はどんなに殺伐としているのでしょうか。基礎研究の土台を持たない自然科学に発展の余地はあるのでしょうか。

4月の始業式のあいさつの中で、筆者は「人は経験したこと、学んだことから作られている」という話をしました。自我、個性、パーソナリティ、どんな呼び方をしてもかまいませんが、人は学びを吸収することでしか成長できません。「役に立つか立たないか」を判断するのは、あくまで現在の自分です。不完全で発展途上にある自分の価値基準です。未熟なモノサシに基づいて「役に立たないもの」を切り捨ててしまっていたとしたら、その人の成長はそこで止まってしまいます。

学びは、山登りに似ていると思います。君が今、ふもとから山頂を目指して登山をしていると想像してみてください。道は曲がりくねり、樹木や山肌に視界はさえぎられ周囲の状況も把握できません。今自分がどこを歩いているのか、目指す山頂がどんな場所なのかわからないまま君は歩き続けなければなりません。しかし山頂に到着すれば、それまで自分の歩んできた道のりを見渡すことができます。そのときはじめて一つ一つの道筋がどんな意味を持ち、どこにつながっていたのかを理解できるのではないのでしょうか。

人は学びによって形作られます。一見、何の役に立つのか判断できないこと、現在の自分の価値基準では理解できないことが、君という人間を形作るうえで重要な要素となるかもしれません。数学の方程式の複雑な証明も、英語文法の不規則変化も、肉眼では見えない植物の細胞の構造も、一生訪れることのないであろうアフリカの小国の産業も、すべてが君という人間を育む大切な糧となるのです。

学びの楽しさについて

「勉強は楽しいですか？」と質問されて、「楽しいです」と何のためらいもなく答えられる人はどのくらいいるでしょう。少なくとも筆者は「はい、楽しいです」と即答できる自信はありません。では、「勉強とは楽しくない嫌なものですか？」という質問に対してはどうでしょう。例えばテスト勉強をしていて、夢中になって勉強していたら知らないうちに何時間も経っていた、などという経験はないのでしょうか。

私たちの身の回りには楽しいものがたくさんあります。ゲームをするのは楽しいし、マンガを読むのも楽しい。テレビでバラエティ番組を観るのも、YouTubeで推しのアイドルの動画を観るのも楽しいですね。

一時マスコミで、「楽しい」授業が注目をあびたことがあります。例えば、歴史の授業で平安時代を教える時に、先生が平安時代（つばい）の衣装を着て教室に登場する。生徒たちはやんやの喝采で先生を迎えるのですが、筆者はニュース映像を見ていて何とも腑に落ちないものを感じました。先生が仮装したことから受ける楽しさと授業の楽しさはまったく別ではないか、と思えたのです。

ゲームやマンガは、娯楽を目的に作成されています。それらが楽しいのは当たり前です。かたや勉強はもちろん娯楽目的ではありません。ゲームやマンガの楽しさと学びの楽しさは質的にまったく別のものです。それでは学びの楽しさとは何なのでしょう。

筆者はその一つは「知る楽しさ」「発見の楽しさ」だと思います。人は生まれながらに「知る」ことに対する欲求を持ち合わせています。それは、未知の対象に対する「なぜ」「どうして」という知的好奇心です。ジブリアニメの名作「となりのトトロ」の中で、五月とメイの姉妹がお化け屋敷と呼ばれる古い家に引っ越してきた日、4歳のメイちゃんが、妖怪スワタリに遭遇するシーンがあります。スワタリの逃げこんだ壁の隙間を、じっと凝視するメイちゃん。口を固く結び、眉間にしわを寄せ、何一つ見逃すまいと目をまん丸に見開いた彼女の表情は、知的好奇心が何かということを私たちに教えてくれます。

知ることは、自分の世界が広がることです。知ることで私たちの内面は豊かになっていきます。学びは、昨日までの未知を既知に変え、新たな発見をもたらし、私たちを豊かな知性の世界へと導いてくれます。学ぶことの楽しさがそこにあります。

学びの楽しさのもう一つの側面として「理解する楽しさ」があげられると思います。いくら考えても解けなかった数学の問題が、突然解法がひらめいてきれいに解けたとき、何が言いたいのか分からない抽象的な評論文を繰り返し読むうちに、ふと文脈がつながって理解できるようになったとき、何ともいえない快感を感じたことはありませんか。理解する楽しさは、達成する楽しさでもあります。分厚い問題集を一冊解き終えたとき、難解な哲学書を何日もかけて読了したとき、私たちの知性は間違いなく広がり、深まっています。達成する楽しさは、自らの成長を実感する喜びにもつながっているのです。

本校では一日6時間から7時間の授業が行われています。筆者は時々校内を巡回して、授業の行われている様子を見学させてもらっています。ある教室では硝酸銀に塩化ナトリウムを加える実験が行われ、ある教室では核のゴミを生じない新型原子炉に関する映像が視聴されています。別の教室では英字新聞の記事を読解しており、別の教室では国際機関の働きについてプレゼンするための資料作成が行われていました。君たちの日常は実に多様な学びの機会に囲まれています。

学ぶことを楽しいと思えるかどうかは、君たちの受け止め方次第です。同じ学ぶなら、受身で誰かにやらされる勉強よりも、発見や達成を実感しながら主体的に学ぶ方がずっと楽しいとは思いませんか？

丈三郎先生生家訪問

5月11日（火）、校長就任のご挨拶のため下妻市黒駒にある、本校創立者飯村丈三郎

先生の御生家を訪問し、墓参を行って参りました。(丈三郎先生の墓所は故郷下妻市にあり、祇園寺の墓所は分骨されたものです。)先生の生家は、立派な長屋門のある古い大きなお屋敷です。先生の玄孫(ひ孫の子)にあたる方が応対してくださいました。歴史を感じさせる仏壇の「報恩院唯心丈翁居士」という戒名の御位牌の前に線香を手向けさせていただきながら、丈三郎先生は本校の未来をどのように思い描いていらっしやっただろう、もしも現在の茨城高等学校・中学校をご覧になったら何とおっしゃるだろう、とそんなことをぼんやりと考えました。

生家から車で5分ほど移動すると、農地や雑木林の間にある飯村家の墓所に到着しました。墓前に生花を供え線香を手向けました。丈三郎先生の墓所からは、薄曇りの空にくっきりと裏筑波の稜線を望むことができました。